



松柏小学校 学校便り

R7. 4. 14 (月)

えがなかちゃん

No. 2

—笑顔・なかま・チャレンジ—

校長 加地孝昌

令和7年度のスタート！GOGO松柏！



4月1日に10名の新しい先生をお迎えし、4月9日には、66名のピカピカの1年生が入学してきました。転校生が2人おり、全校児童数453名となり、**市内で一番大きな学校となりました。**クラス数は、3年生と5年生が3クラスあり、全部で18学級です。教職員数

は38名です。児童453名、教職員38名、合計491名で力を合わせ、「笑顔いっぱい」、「なかまいっぱい」、「チャレンジいっぱい」の松柏小学校をしっかりとつくっていきます。GOGO松柏小！です。

新着情報、3つ紹介します！

その1 運動会種目に「疏水音頭」が追加されます

皆さんは、松柏地区に伝わる「疏水音頭」をご存じでしょうか。毎年、公民館祭りで、婦人会の方がステージで披露してくれている踊りです。

「疏水音頭」が松柏地区で生まれたのには、深い理由があります。時代は、江戸時代までさかのぼります。**安政2年(1855年)に宇摩地方が、大干**

ばつに見舞われ、池も井戸も涸れてしま

いました。そこで、松柏の庄屋さんたちをはじめとする方々が、山一つ越えた場所にある銅山川の水を宇摩地方に引き入れることはできないかと代官所に願い出ました。しかし、銅山川の水利権は徳島県にあり、徳島県からは水位低下の問題等で猛反対を受け、愛媛県からも許可が下りませんでした。そんな中、下柏の菰田さんをはじめとする方々が、私財を投げ打ち、毎年のように上京して国の大



疎水公園に桜の木を植えた6年生

臣に訴え、また、徳島県との話し合いの場を重ねる中で、ようやく昭和11年に、「銅山川分水協定書」が愛媛県知事と徳島県知事の間で交わされました。最初の交渉から、なんと、80年の年月が経っていました。「疏水音頭」は、その協定が結ばれ、「宇摩地方に水が来る」ことを祝い、生まれたものです。「疏水音頭」は8番まで歌があり、その歌の中には、「疏水」「安政」「流れて」「黄金水」「みのりの秋」などという言葉もあり、水が来ることをお祝いする歌となっています。松柏の歴史に切っても切れないつながりの深い「疏水音頭」を、次世代の子どもたちにも引き継いでほしいという地域の方々の熱い思いから、今年から、3・4年生で疏水音頭に取り組むこととなりました。婦人会の方を講師にお招きし、地域の伝統を受け継ぐ踊りを運動会で披露いたします。

その2 運動会の時、「引き渡し訓練」を行います

南海トラフ地震がいつ発生してもおかしくないと言われています。松柏小学校では、これまで引き渡し訓練を行っておりませんので、南海トラフ地震が発生した場合、児童や保護者の方、先生方も、どの場所でのような形で子どもたちを引き渡した良いのかが分からず、パニックになる可能性があります。そこで、運動会の午前の部が終わった後、昼食前に、引き渡し訓練を行いたいと思います。一度経験をしておけば、児童も保護者も、「あの場所に行けばよい」と想定できますので、かなり落ち着いた行動が取れると思います。PTA総会時に、どのような形で、引き渡し訓練を行うのかを説明させていただきます。



その3 文部科学省指定の研究校になりました



今年、本校は、リーディングDXスクール事業という文部科学省の研究指定校となりました。これは、1人1台端末を授業で積極的に取り入れ、児童のICT機器の活用能力を高めるとともに、友達との関りも深め、学力向上へもつなげていくという研究になります。ICT機器への活用は、これからの時代に求められる力でもあります。子どもたちと、楽しみながら研究を深めていきます。